

学ぶことの必要性

富岡東高等学校羽ノ浦校 一年 板東 希海

ばんどう のぞみ
(敬称略)

私は、中学生になるまで「部落差別」や「同和問題」について知らず、言葉すら聞いたことがありませんでした。後に知って、中学校と高校で学習してきました。しかし、ある程度そのような差別について理解できていると思っていました。しかし、授業で学んでいくほど自分は差別についてあまりつかめていなかったことに気がつきました。

今までを振り返り、特に中学校の時が自分にとってさまざまな問題を考える事ができる機会が多かったと思います。授業や学校全体で他の人の意見を聞く、発表する時間が多くその度に差別について考えさせられました。特に私は学習の中で部落差別について「最初から知らなければ、差別する人も増えない、学ぶことによって差別する人を増やしていると思う。」と、意見を言っていた人が居た事が今でも強く印象に残っています。その人だけではなく同じようなことを言う人は周りにもインターネットでもいろいろな場所にいました。たしかに、差別の原因となることをそもそも知らない方が差別はおこらないのではないかと考える人もいると思いますし、伝えたいことは分かります。しかし、私は部落差別について学ぶのはただ、差別の解決だけが目的ではないと思います。差別についての学習は二度と同じことを起こさせないという決意や過去のまちがった行いからの戒めになるから行う必要があると考えました。もし、全員部落差別について忘れ、全く何も知らない状態だと気づかないうちに同じような差別を生み、過去の過ちをくり返すことになる可能性があります。まちがった行いを知らないからこそ、そのような差別があっても止めるのが遅れてしまうとと思います。だから、部落差別について学び過去の行いをまちがいだと認識する必要がありますと考えました。また、知っていたとしても誤った認識を正し、正しい知識や認識をもっていることは、自分を守ることにつながると思いますが、突然ですが、「えせ同和行為」とは何か知っていますか。実は私はえせ同和行為をつい最近初めて知りました。えせ同和行為とは同和問題を口実に高い金品を要求したり、違法・不当な利益や義務を企業や官公署などに要求する行為のことをいい、同和問題への誤った認識や意識を植えつけ偏見や差別意識を助長する要因となっています。例えば、企業に同和問題についての参考書を高値で売りつけたり、同和問題を口実に賛助金の要

求をしたり、脅しをまじえる場合もあります。これらは、偏見や差別の要因をより増してしまうことになるため、正しい知識と解決策をあらかじめ知る必要があります。同和問題をこのような形で利用することは最低な行為です。今まで差別の解消のために行動してきた人達の努力を踏みにじるような事なのでたくさんの方の思いを守っていくためにも知るだけでなく正しい知識をつけることも必要だと思いました。

同和問題、部落差別だけでなく他の人権問題にも共通することは、学んだり正しい知識を知ることが必ず大切な目的をもっているということだと思います。人権問題について学ぶことに対して消極的になるのは一人一人が身近な問題だと感じにくいのも要因の一つだと思います。しかし、学習を進めるうちに知識が増えていき、身近に感じるきっかけも増えていくと思うので学生のうちに留まらず、大人になっても学び考え続けることが大切です。私も人権や日本国内だけでなく世界にも視野を広げ、まちがいをまちがいだと言えるようになりたいです。そこから、改めて考え直し常に人の気持ちにくみとれる人間になりたいです。